

## 平成31年度 第3回森町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成31年2月13日(水) 午後1時30分～午後2時37分

2 場 所 森町文化会館 第2研修室

3 出席者 森町長 太田 康雄  
森町教育委員会  
教育長 比奈地 敏彦  
委 員 井口 始  
委 員 村松 加代子  
委 員 鈴木 眞子  
委 員 早馬 保男

(説明出席者)

副町長	村松 弘
学校教育課長	西谷 ひろみ
学校教育課長補佐	塩澤 由記弥
学校教育係長	土屋 智也乃
庶務係長	岩井 秀司
社会教育課長	鈴木 富士男
社会教育課技監	北島 恵介
社会教育課長補佐	松浦 博

4 議 事 (1) 森の教育の進捗状況について  
(2) 学校の再編について

5 傍聴人 5人

6 議事の概要

学校教育課長 開会

町長 2月も半ばにさしかかり、仕上げ、まとめの時期となる。今年度3回目の総合教育会議となるが、今年度の取り組みの確認が主な内容となる。今年度新たな事業もあるので、進捗状況や効果の確認をお願いしたい。

町では、新年度に向けて当初予算の編成を進めており、取りまとめに着手している段階。来年度も本年度取り組みを開始した事業に関して引き続き進め、新たな事業についても、できる限り取り組みたい。

教育長 日頃から教育行政に理解・尽力いただいていることは、現場の教職員の声からもうかがい知れるところ。

総合教育会議の内容に入る前に、8月4日に教職員が起こした重篤な交通事故に関して報告する。被害者、家族を始め、住民の皆様、町当局にも迷惑と心

配をかけ、申し訳なく思う。被害者は、良い方向に向かっており退院された。本人は、新聞報道のとおり過失運転致傷で判決が出ており、県からは停職1か月の処分を受け、現在自宅で反省している。本人が被害者宅に頻りに訪問し、家族からも厚意を受けており、今後も手厚く訪問するように指導している。

本日は、3回目の会議となり、森の教育の振り返りをして次年度につながる会議としたい。再編についても、第2回の町長から提案を受けて、教育委員会として賛同し、具体的な再編案が動き出した。事務局から説明会等の報告があるが、参考にしつつ道筋について確認したい。

学校教育課長 議事進行を町長に願います。

町長 議事(1)森の教育の進捗状況について説明を求める。

学校教育課長 8月28日の第2回総合教育会議以降の状況と次年度の取り組みについて説明する。

本年度から森小学校に開設した通級指導教室「そよかぜ」は、週3日開設し、県の非常勤講師での対応で、対象者11人が利用。個々に応じた学習を提供できるため、成果が現れている。来年度は、県の正規教職員が1名配置予定となり、町の支援員も1名増員し、2名となるため、毎日開設とし、更に充実すると思われる。

不登校支援センター「わかば」は、不登校の児童生徒の居場所づくり及び学校復帰への支援を行う場所として本年度新たに設置。週3回午前中に開設し、町の指導員2名を配置している。小学校1名、中学生4名が利用しており、うち中学生2名が学校へ復帰をし、大変大きな成果をあげている。来年度も本年度と同様に開設予定。

JETプログラム活用によるALT配置については、前回報告のとおり、4月から2名、8月から2名の計4名を配置。町の直接雇用で1名、派遣業務委託で1名、合わせて6名のALTを町内の全幼稚園小中学校へ配置している。金曜日の午後は、全員集まって研修会を実施。子供たちにとっては、生きた英語に触れる機会が多くなり、英語が楽しいものとなりつつある。小学校については、英語の教科化に向けた取り組みを始めている。

ネットパトロールは、本年度全中学校で偶数月に実施、翌月報告される。件数が伸びているのは、前月分を累計し、前の報告事案についても引き続き調査するため。平成31年度は、小学校においても学期に1度実施予定。

幼小中一貫教育は、8月の報告以降、11月に中学校校区ごとに幼小中一貫教育の日を設け、成果をあげている。

全国学力・学習状況調査については、9月25日に研修主任を集め、学力向上対策委員会を開催し、分析と指導を行った。

学校施設修繕事業については、予定していた森中学校給食棟エアコン設置工事と天方小学校グラウンド水はけ改修工事が、予定どおり終了。宮園小学校水泳プール改修工事は、予定どおり進めている。幼稚園・小中学校空調施設整備工事については、猛暑対策として幼稚園全教室、小中学校のすべての普通教室及び学校から要望のあった特別教室にエアコンを設置する。今月末に入札、3月議会で契約の議決を予定。6月末までには完了する予定。

広島平和記念式典は、旭が丘中学校区の小中2名ずつ派遣した。

北海道森町友好親善訪問については、本年度が派遣の年であり、来年度は受入の年となる。

教育委員による学校・教育施設訪問も例年どおり、5月から6月にかけてすべての各幼稚園、小中学校、教育施設を訪問した。

教育顕彰式が3月2日土曜日に開催予定。

社会教育課長 学校教育課と同様に主なものについて説明する。

社会教育総務関係事業の男女共同参画の推進については、9月1日に森町役場の宣言事業所として登録した。

北海道森町交流事業は、北海道森町から女性4名の研修生を11月9日から10日の2日間迎えた。

生涯学習推進事業としては、地区社会教育推進協議会補助金交付4件、講演講師料補助・モデル町内会申請は0件。出前講座は8件のうち、半数がハザードマップ関連の内容。3月16日から17日に大学祭を予定。

家庭教育支援員の活用については、保育園1園全幼稚園、小中学校で実施し、遠江総合高校生キャリア教育でも実施した。

図書館事業として、ブックスタート事業を偶数月に実施し、参加者数100人。2月24日に読み聞かせグループ等のための研修会・交流会の開催予定。講師に秋山みどりさんを迎える。

文化会館事業は、修繕関係を契約額で記載した。

体育館事業では、小中学生及び高校生の全国大会等参加補助として8件7人に支出した。市町対抗駅伝競走大会は、町村の部7位で敢闘賞を受賞した。各種スポーツ教室・大会は、資料のとおり実施した。

社会教育課 文化振興関連事業としては、8月4日に文化講演会を文化協会との共済で開催。元静岡県史編さん室長の中村さんを講師に迎え、「遠州森町よい茶の出処」として講演会を実施。約160人が出席。森町の繁栄には、お茶が関係していたことが確認できた。10月27日から28日に町民文化祭を例年どおり開催。

文化財保護事業としては、文化財看板を3箇所を設置作業中。森町歴史伝統文化保存会の結成を支援。2月10日結成総会及び研修会が開催され、約160人が参加、入会。今後、段階を経て独立団体として運営することを目指す。歴史民俗資料館の屋根雨漏りの修繕が完了した。

埋蔵文化財発掘調査事業は、開発に伴う埋蔵文化財調査の実施。園田地区がパーキング周辺、飯田地区が森掛川インター周辺において、包蔵地の発掘調査を実施。戸綿については、遺物等は発見されず、文化財等の所在はないと報告した。一宮地区の片瀬城周辺の茶畑の調査も実施している。

町長 学校教育課、社会教育課から森の教育の進捗状況について、説明・報告があったが、教育長から報告等あるか。

教育長 園も含め安定した経営ができた。

通級指導教室において、復帰した生徒がいて良い成果があったと報告があったが、森町において不登校児童生徒数の推移は、昨年度より少し増えていることを危惧している。これは、森町に限らず他の市町でも同様ではあるが、「わかば」ができたので、保護者と学校関係者、スクールソーシャルワーカーが、できるだけ無理強いせずに自然体の中で学校以外の場として参加し、不登校の

児童生徒の数が減るような取り組みをしたい。学校が右往左往するような事件はないので、安定していると言える。

町長 委員から学校教育課関係で質問等があるか。

井口委員 学校施設修繕について、特段の配慮をいただいたこと、特にエアコン設置やプール修理については、早急な対応いただいたことは、学校にとってもありがたいこと。緊急にあるにも関わらず、決して少なくない支出をいただいている。緊急なことであるが、多面的に今後学校教育にかかる経費を展望すると、施設設備は耐用年数の問題があり、金額を考えると膨大な金額が予想される。中長期的な展望を持って、教育への支援をお願いしたい。

町長 中長期的な展望を持って、教育への支援をお願いしたいとのことだが、学校教育課長が現在持っている計画等はあるか。

学校教育課長 町としては、公共施設管理計画を基にしているが、これによると30年以上経過した施設のうち教育関係が全体の半分以上を占めている。学校関係については、今年と来年にかけて個別計画を策定している。金額が大きいので、修繕は計画的に行いたい。

町長 幼稚園、小中学校の空調施設整備については、大きな課題であったが、全国的な問題であり国でも特別に対応するため、国の方針にのって森町でも整備を決断した。公共施設管理計画や個別計画についても、国の方針に対応できるように準備することと、タイムリーに制度を活用できるようにアンテナを高くしておくことが重要。

村松委員 わかばの開設は、磐田市袋井市森町教育委員懇談会でも話が出ていて、磐田市や袋井市では、既に設置され活用されていると聞いている。森町においても、小さい町ではあるが、このような施設が設置され、不登校の児童生徒の居場所があるということが大事なこと。JETプログラム活用によるALTの配属については、子供たちが楽しく授業ができていことが見られ、2020年度からの教科化に、子供たちもスムーズに対応できると思う。

鈴木委員 そよかぜを見させてもらったが、しっかりした設備で、個々の対応で児童生徒が良くなっているとの報告があった。先生が常勤になると良いと感じていたが、来年度は常勤となるということで良かったと思う。

早馬委員 JETプログラム活用によるALTを見て、自分たちの頃とは随分違うと思った。生の英語を聞いて、子供たちが生き生きとコミュニケーションしており、これからの子供たちにとって大事なことだと感じた。

町長 JETは、森町として初めての試みであり、始まるまでは不安もあったが、大変良い方々が派遣されてきたので、良かったと思う。これに取り組んだ意味合いは、小学校で英語が教科化されることについて、これからの英語教育には生の英語を聞き、年少期に直に触れ合う機会が大事なことであり、これから求められる生きた英語は、こういったことから始まると思われる。

来年度は、現在派遣されているALTは継続してくれるか。

学校教育課長 4人ともそのまま継続してくれる予定。学校の組み合わせは変更も考えられる。

町長 1年毎の更新となるが、来年度も継続していただけるとのことで、更に英語教育が深められると期待している。

- 社会教育課関係で質問等はあるか。
- 村松委員 図書館事業でブックスタート事業が始まり、私も3回ほど参加した。偶数月に20人前後の赤ちゃんとお母さんたちが参加してくれるが、ボランティア10名くらいがプレゼントの本を読み聞かせたり、子守歌を歌ったり、手遊びをした。子供も母親もゆったりとした時間を過ごし、有意義な事業だと感じた。
- 町長 単に絵本をプレゼントするということではなくて、町の事業とすると絵本を購入する予算だが、それ以上の事業効果があると評価いただき、ありがたい。
- 教育長 社会教育課関係では、文化会館が20年経過して老朽化している。大がかりな修繕が控えており、計画的に修繕をしたいと考えているので、理解をいただきたい。
- 井口委員 森町歴史伝統文化保存会の結成について、定例会の議事でもあり、新聞にも掲載され承知しているが、主旨としては町民へアピールする事業だと思う。もう少し、分かりやすく町民へアピールする計画があれば知りたいと思う。
- 社会教育課技監 総会の後、会長や幹部の方と今後の推進計画を検討した。地域ぐるみで地域のもを大切にしよう、金をかけなくてもできることがあるのではないかと文化財が大切なものであるということ深く認識してもらったことといった意見があった。今後の活動の方針については、独立採算性を目指した法人格を取得できるような団体を目指すという目標を持って活動するが、まずは町民の皆様文化財が多数あることを知っていただくことが第一であるという認識で、1年くらいは、講演会や展覧会等を開催する。その上で修理技術の伝承や文化財保存の実習等を行っていききたい。
- 町長 森町歴史伝統文化保存会の結成については、第9次総合計画にも謳っている事業であり、2月10日に無事に発足できた。会員も約160名ほどの入会があり、思ったより大勢の方が入会され、総会研修会に参加してくれた。新聞にも掲載され、町民にも、町外の方にも反響があった。これから、実際に活動する中で理解を深め、参加を募っていくことになる。行政の力だけでは手が回らないところを官民一体となって組織を立ち上げて活動する中で、行政の力や手の及ばないところに手を伸ばしてもらえると期待している。
- 文化会館の事業について、担当課として補足説明はあるか。
- 社会教育課長 漫才や落語等の演芸関係が森町では人気が高く、完売となる傾向がある。クラシック等や吹奏楽の関係は人気が少ないが、公共施設なので文化を広めるという意味で収益が望めなくても積極的に行う必要があると思っている。
- 町長 クラシック等は人気は低いとのことだが、森町の文化振興の拠点として、年に1回か2回程度は行っていきたい。興行という意味合いだけでなく、文化度を上げる意味で今後も取り組みたい。文化会館の事業について意見はあるか。
- 村松委員 わざわざ遠くに出かけなくても、子供たちにとってクラシックが聴ける機会に恵まれることは大事なこと。どこに視点を置くかは難しい。ミュージカルは楽しかった。
- 町長 議事(2)学校の再編について、事務局から説明を求める。
- 学校教育課長 学校の再編に伴う会議や説明会等の実施状況については、8月28日に2回目の総合教育会議で町としての方向性が示されたことを受けて、三倉・天方両地区への説明会を行った。10月は、地域の祭典や行事がある

ため、11月中旬からスタートした。少しでも多くの方に聞いていただけるように三倉・天方両地区へ2回ずつ4回行った。都合が悪い方もどちらからか出席できるよう同じ内容の説明会を2回ずつと、各学校の保護者を対象に1回ずつの計7回説明会を行った。12月3日までの地区住民説明会等での様子や意見等については、毎月定例会終了後に意見交換の場として教育協議会を設けて教育委員には報告している。

12月末には0歳から中学3年生の保護者の方を対象に、意見や要望、心配な点等を集めるためにアンケートを実施した。その中で、通学の足の確保、学校用品の補助、放課後子供教室の継続等が多く寄せられた。庁内でも検討し、1月28日と1月31日に開催した地区住民説明会の中で対応について説明した。今まで行ってきた7回の説明会は、教育委員会によるものだったが、この1月の2回の説明会は、町としての説明ということで町長・副町長が出席した。説明会では、三倉地区では、三倉小学校が素晴らしい教育を行っているという現状を訴える声や地域コミュニティの核を失ってしまい地域が壊れてしまうという声、通学距離が長くなることによる子供の負担を心配する声、定住推進課ができて移住定住を推進しているので、その効果が出るのを待ってからでもいいのではとの声、統合を進めるのではなく立ち止まってほしいという声も寄せられた。天方地区では、先日町長に提出された統合の白紙撤回を望む要望書に対する回答についてと森町全体のバランスを考えて北部地域から学校をなくさないでほしい、小学校の統合は中学校の統合の結果を検証してからにしてほしいという意見があった。また、統合のいい悪いは別として、地域の皆さんが学校のことについてみんなで真剣に考え、討論がなされたのは大変よかった、地域のコミュニティのあり方として次のステップにつながる段階になったのではという声もあった。

今後の予定として、中学校については、具体的な検討を進めていく上で、泉陽中学校、森中学校の教職員、PTA、地域の方々による統合準備会の設置にあたり、再度泉陽中学校区に出掛け、設置に向けた説明会を開催し、一人でも多くの方に理解いただけるよう努めたい。資料に今後のスケジュールがあるが、今後、準備会の立ち上げに入る。当初は3月という予定だったが、年度が変わるとPTAや地域の役員も替わるため、正式には4月に入ってからになる予定。分野を5つに分けて具体的な検討をする。6月議会に学校設置条例の中学校の設置に関する規定の改正が議決されると正式に統合が決まる。

教育長

教育委員会として説明会を行い、再編に至るまでの経緯を説明した。平成24年度くらいから議会でも取り上げられ、町民の方から様々な声が入ってきた。27年1月には、国から少子化や人口減少の中での学校のあり方について主体的に見直すように手引書が示された。そのような背景の中、教育委員会としてどうあるべきかを話した。

手引書の提示等に伴い、最初に、小規模の小中学校において2年間で保護者の声を聞いてきた。平成29年度には、専門家を招いて調査したり、あり方検討会を6回開催して検討を重ね、その間にアンケートや地域説明会を開催し

た。1月には、町長及び副町長にも出席いただき、町としての説明会を行った。それぞれの会で地域を愛する方から地域コミュニティの核としての学校がなくなることで地域がなくなるのではないかと、現在少人数の良さを生かした学校経営を行っているが何が悪いのかといった厳しい意見をいただいた。

説明会の様子は、定例会の後の協議会でその都度報告して情報共有している。教育委員会としては、教育を基本として考えており、小規模校における今の教育に満足することなく、課題があるという事実を重きを置いた。教育界が過去にない早さで変革しており、求められているものがこれまでとは全く違う。教育的に考えて1人の人としてたくましく心豊かに育つ環境がどうあるべきかという考え方をすると、極論を言えば、学校の存続より、町長から賛同を得た再編計画の実現に向けた歩みを積み重ねることが教育委員会としての役割と考える。

まずは、中学校再編の説明会を開いて、できるだけ多くの同意を得たいと思う。

町長 私も1月28日と31日の説明会に出席し、8月28日の総合教育会議で教育委員の皆さんに話したことと同じことを説明した。なぜ今、学校の再編をするのかということについては、小中学校が義務教育であり、町立の学校を町としてどうあるべきかを専門家の意見を参考にしながら、教育委員会で検討した結果を尊重して方針を示したことを改めて説明した。

多くの課題、不安、問題がある中で、町として現在対応できるものについても、その内容を提案した。簡単に解決する問題ではないので、より多くの方の同意を得られるように努めて、丁寧に慎重に進めたいと思っている。

井口委員 平成24年頃から、この件について様々な分野で検討してきたということだが、時間をかけて検討してきたことがこのスケジュールになっている。更に幅広い皆さんの理解を得て進められたら良いと思う。

教育委員会としては、地域の皆さんのこと、地域の体制等も大事なことだと思っており、それにより町全体が賑わえば良いと考えている。一方、これからの子供の学びの場として、学びの姿をどう求めるかについての示唆を与えてくれたのが、あり方検討会の答申だった。答申では、子供にとってのより適正な規模について検討したらどうかという内容だった。

年に何度かの学校訪問で学校の様子を見る機会があるが、子供たちが一生懸命がんばっている姿が大変嬉しく思う。ただ、1つの教室で2学年の子供たちが1人の先生に教わっている姿が、必ずしもベストな形と言えるのか考えさせられる。私も学校に勤務した経験があり、私が勤務した学校は三倉の更に先の小規模な学校であったが、当時、家族を伴って入居して住民となって村の方と生活を共にしながらできたことだった。当時は、交通機関も不便であったが、国の制度より今より充実していた中で、励まされてできた一面もある。

1人の子供に手厚い指導ができることは、小規模の良さとして望むことはできるが、社会情勢や人口形態等の背景でできた一面だと思う。

今は、人事、定数、給与等恵まれてきた部分もあるが、薄くなっている部分もある。1人1人に指導が行き渡る教育のためには、相応な指導体制を保証することも大事なことだと思う。

町長 今後についても、事務局から委員の皆さんに随時報告をして、意見を伺うようにお願いします。

議事については、以上で終了となる。

学校教育課長 その他ということで、意見等あれば伺いたい。

学校教育課長 閉会